

令和6年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立直方特別支援学校

特21

自己評価					学校関係者評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)					
学校運営方針	安心・安全な教育環境のもと、幼児児童生徒一人一人が学び、考え、表現する指導を行うとともに、保護者や地域及び関係機関と協働し、信頼される開かれた学校づくりをすすめる。				評価 (総合)	学校関係者評価			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標							
新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、コロナ禍にできなかった学校行事をはじめとした教育活動を精選し、実施することができた。また、中堅教員に対する学校運営や人材育成に積極的に関わる機会の設定や、初任者に対する3年間の計画的・系統的な若年研修と、日々の指導や研修における学校全体でのOJTから、人材育成に努めた。 一方、数年後を見据えたりーダーを育成や、専門性を目的とした研修等の受講や互いの専門性を生かした教員の資質向上、ホームページや連絡メール等を活用した保護者に対する情報発信、子供たちが安心・安全に過ごせる環境整備と危機管理体制の充実、将来をイメージした幼稚部・小学部・中学部・高等部の教育活動の充実に努める必要がある。	専門性向上	①幼児児童生徒に育てたい力の明確化 ②教育課程の系統性の検討(学部内・間) ③ICT機器やアプリの活用力底上げ	評価 (総合)	学校関係者評価委員会からの意見					
	学校研究	①3年間の研究のまとめ ②次年度研究のテーマと方法の検討							
	人権意識向上	①生活年齢等を踏まえた対応の推進 ②相互の人格を尊重する集団づくり							
	進路指導充実	①段階表を活用したキャリア教育の充実 ②進路選択につながる幼児児童生徒の自己理解の推進							
	生徒指導充実	①幼児児童生徒の特性に応じた指導の推進 ②保護者、関係機関への連絡と情報の共有 ③ケース会議等を活用した長期欠席、不登校の解消							
	安心安全な環境整備	①校舎新設にかかる安全確保 ②看護職員や医療関係者との連携強化による安全な医ケアの実施 ③災害時における避難方法の随時確認							
	働き方改革推進	①学校・寄宿舎行事の見直しと精選 ②引継ぎ資料のデータ化 ③学部、分掌における業務内容の平準化							
	他機関との連携	①校内外の教育相談充実のための人材育成 ②個別の教育支援計画等を活用した関係機関との連携強化 ③HPやPTA新聞を活用した情報発信							
	評価項目	具体的目標			具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
	学校運営	○教員一人一人の実践的指導力の向上を目指して、組織として人材育成の充実に努める。			○県教育センターや国立特別支援教育総合研究所等で実施されている専門性向上を目的とした研修の計画的な受講を進めたり、研修部と連携し、専門家活用事業を効果的に活用したりする。 ○各主任や学部主事を中心とした日常的なOJTの取組を進め、ベテラン、ミドル、若手が、チームで学び合う雰囲気づくりに努める。				
○部門や学部、分掌、各関係機関の連携によるチーム学校づくりを目指す。		○3部門9学部や分掌等の課題や議案に応じた横断的な連携をさらにすすめ、組織的な教育活動と教職員の働き方改革を推進する。 ○学校評議員会及び学校関係者評価委員会をはじめ、各関係機関等からの意見や要望を学校運営に生かす。							
教育課程	○適切な教育課程の編成を図る。	○学部内での共通理解のもと、障がいの状態及び発達段階や特性等に応じた教育課程の編成を行う。 ○安全・安心な学びの場を確保し、豊かな学びと体験ができるように、校舎建替等に伴う諸課題を把握して教育環境の整備に努める。 ○個に応じた教育活動や関係機関との円滑な連携のため、個別の教育支援計画や個別の指導計画の適切な運用と作成要領の周知に努める。							
	○教職員一人一人が主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の在り方を深く理解し、主体的に研究に取り組むことができるように、研究の目的や内容方法を明確にし、共通理解を図りながら推進していく。	○代表授業者を選出し、単元デザインシート、略案作成後、本時授業における手立ての有効性をグループで協議する場を設定する。また、各自の実践例を単元集(単元デザインシート、略案)としてまとめる。 ○研修係で、2つの学びの過程(単元構成・1単位時間における「もつー表現するー振り返り」の3つの観点)の見直しについて、子どもの変容から考察し、3年間のまとめを行う。 ○次年度に向けて、各研究グループの意見を集約した後、学校研究のテーマを検討し、決定する。							
	○教職員の資質及び専門性の向上に資する研修の円滑な実施に努めるとともに、研修のPDCAサイクルを実施する。	○校内研修や新転任者研修が、他分掌と連携し本校の実態に応じた研修となるように、連絡調整を行う。事後アンケートを実施して次年度の計画の内容・日程の見直しを行う。 ○専門性向上研修について、学部主事と連携しながら、部門毎に障がい種に応じた研修を企画・立案する。また、学校研究と関連付けたり、外部講師を活用したりするなど内容の工夫をする。							
○若年教員研修担当を中心とし、ベテラン教員や中堅教員等と連携を図りながら、全職員で若年教員の育成にあたる。	○若年教員研修担当を中心とし、全職員で若年教員の育成にあたる。 ○先行事例を紹介し、課題研修の進め方の理解につなげる。								

人権・同和教育	○幼児児童生徒の自己理解や他者理解を深めるとともに、自尊感情や障がい認識を育む。また、職員研修の充実及び関係機関との連携を図り、共生社会の形成を目指す。	○系統的な人権学習が行えるよう、小学部、中学部、高等部の人権学習担当で協議する場を設定する。 ○外部講師を招聘し、「当事者の話を聴く」職員研修会を計画、実施する。各部門等の取組についての実践交流会や、校外研修の内容や感想等の広報誌への掲載で、職員全体で学び合う機会を設ける。 ○本校の取組をホームページ等で発信したり、地域の実践交流会等でレポート報告したりする等、保護者や地域、関係機関との連携を図る。						
情報教育	○個人情報をはじめとする情報管理とICT機器の活用を両立させ、機器活用がしやすい環境を整備し、授業への活用を推進する。	○学部ニーズに応じてICT機器等の活用に関する学習会を計画・実施し、ICTの活用推進を図る。 ○情報セキュリティマニュアルを更新し、マニュアルに基づく情報管理体制を整える。 ○HPの更新を計画的に行い、情報発信に努める。						
庶務	○OPTA活動活性化の推進に努める。 ○同窓会行事の充実に努める。 ○互助会福祉事業の推進に努める。 ○業務の効率化を図る。	○OPTA役員会を月に1度実施し、安全なPTA活動のあり方を考える。 ○OPTA通信「かがやき」の作成手順を見直し、個人情報のチェックを確実にを行う。 ○安全に配慮しつつ、同窓会行事を充実させる。 ○地区の互助会事務局として直轄地区の福祉事業の取りまとめを行う。 ○互助会の校内福祉事業を充実させる。 ○業務を効率化させるため、必要に応じてマニュアルの見直しを行う。						
幼児児童生徒指導	○諸問題に対応するための支援方法や情報を全職員で共通理解する。 ○児童生徒会活動に主体的に参加できるように、各部門・各学部間の連携を図る。 ○安全で安心な通学ができるように実態に応じた指導・支援を行う。 ○安全・安心な環境づくりに努める。	○問題行動や長期欠席・不登校の対処方法や解決に向けて、ケース会議を設定し、当該学年、また必要に応じて家庭、寄宿舎、関係施設で共通理解を図る。 ○児童生徒会を中心とした生徒会活動、委員会活動、集会、行事、選挙活動等児童生徒主体で計画させ、自己有用感の向上を図る。 ○通学バスの安全な運行に迅速に対応する。また通学の方法について社会の変化を鑑みながら、家庭への配慮や個に応じた対応を考える。 ○不審者情報、交通安全学習等を通して、正しい行動を考えさせる。また、いじめや性暴力について、早期発見、早期対応に尽力する。						
保健・安全	○幼児児童生徒が安全・安心な生活を送るための緊急対応訓練と職員研修の充実を図る。 ○幼児児童生徒が心と身体の健康を増進できるように学習の計画や実践に努める。 ○看護職員や医療関係者との連携強化による安全な医療の実施できるようにする。	○安心・安全な学校生活を送るために、緊急時対応訓練の意義を全体へ周知し、フレ・本番の2段階での緊急時対応シミュレーションの実施と振り返りを徹底する。 ○各研修の内容や資料を見直し、全職員への漏れのない周知とスキルアップを図る。 ○「性と健康に関する指導」を計画的に進め、自分で健康増進や安全を意識させていく。また、スクールカウンセラー事業を円滑に運営し、心の安定を図る。 ○医療的ケア校内委員会を中心に、保護者、看護職員、医療関係者と連携し、保護者の負担軽減に配慮した安全な医療的ケア体制整備・実施に努める。 ○研修動画の視聴や手引きの活用、職員研修を通して、医療的ケアに関する知識と理解を深める。						
センターの機能	○地域の特別支援教育の中核として、幼児児童生徒等の適応性の向上を目指して、保護者や学校関係者等と連携した相談支援業務に専念する。	○対象幼児児童生徒等の様相を観察したり、聴力測定や教育的心理検査等を実施したりして、できる限り正確な状態を把握する。 ○対象幼児児童生徒の在籍校等と協議しながら、幼児児童生徒等の状態や今後の展望を鑑みた実現可能なサポートを進めていけるように努める。 ○特別支援学級に在籍している児童生徒に応じた学習内容が構築され、指導が具現化されていくように、積極的に授業を参観して指導助言を図る。						
進路指導	○自立と社会参加を意識した進路指導の推進を図る。	○実習等の体験活動や進路学習を通して、幼小中高それぞれの段階で進路についての意識付けを行う。 ○進路先や支援センター、行政などの関係機関との連携を図る。 ○保護者、職員向けに説明会を実施し、進路情報の発信を行う。						
防災	○幼児児童生徒の実態及び、学校の実情に応じた、より安全な避難方法の検討や訓練の実施に取り組む。 ○幼児児童生徒や職員の災害用の備蓄食料・防災備品の管理方法を確立する。	○避難訓練の意義を共有したり、避難経路の検討をしたりしながら、実際に災害が起きた時を想定しながら避難訓練を実施する。 ○大規模災害を想定し、保護者への引渡しまでの体制について検討し、対応シミュレーションを実施する。 ○備蓄食料の内容や保管場所、賞味期限前の備蓄食料の交換の手順等の管理方法を検討する。						
寄宿舎	○寄宿舎、学校各部と連携を密にししながら、舎生の安全と健康を第一に考え、安心して充実した寄宿舎生活を送ることができるようにする。	○寄宿舎、学校各部の連携による組織的な支援体制により寄宿舎教育の充実に努める。 ○防災、緊急・危機時の訓練を実施し、安全・安心な寄宿舎生活の充実に努める。 ○保護者や関係機関と連携して共通理解を深め、舎生個々の課題に適切に対応する。						
事務	○予算の効率化・明確化を念頭に、幼児児童生徒の情報及び各部門学部の均衡を図った予算の執行に努める。 ○大規模工事について、保護者及び職員に細かな周知を行い情報共有に努める。	○経費節減を念頭に置きながらも、幼児児童生徒の実態・実情に応じた、弾力的かつスピード感のある予算執行に努める。 ○大規模工事について、幼児児童生徒及び職員の安心安全を確保するよう努める。 ○工事のみならず、職員への給与や服務等に関する対応、保護者への就学奨励費等に関する対応を、遅滞なく丁寧に行っていく。						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

--

評価項目以外のものに関する意見

--